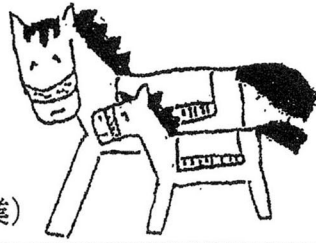


お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

21年 9月 NO. 178



(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL: 087-821-9347 FAX: 087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～		9月の主な活動		～お気軽にどうぞ～
9月 5日	土	木工教室 14:00～16:00		木のおもちゃなどを 作ってみませんか。
9月 11日	金	おはなしの会 10:30～11:30		今月は、敬老に関する絵本や 紙芝居などいろいろ楽しめます。
9月 12日	土	体験保育 10:00～12:00		同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
9月 12日	土	実用筆書き講座 14:00～16:00		初めて筆で書く人。 大歓迎！
9月 16日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00		「エンブリオの会」亀山さんの話や フリートークでホッとしたりひとときを。
9月 25日	金	健康・育児相談 11:00～12:00		小児科園医師にゆっくり 相談できます。(予約要)
9月 26日	土	体験保育 10:00～12:00		出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。

・毎火曜日 園庭開放(13時～16時)
・上記の活動日以外は13時～18時まで地域開放します
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談 (月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、
保育園生活、入園・見学について
の相談もどうぞ。



梨の芯はすてるもの、だから
芯まで食べる子、けちんぼよ。

梨の芯はすてるもの、だから
そこらへほうる子、ずるい子よ。

梨の芯はすてるもの、だから
ごみばこ
芥箱へ入れる子、お伶俐よ。

そこらへすてた梨の芯、
あり
蟻がやんやら、ひいてゆく。
「ずるい子ちゃん、ありがとよ。」

芥箱へ入れた梨の芯、
じい
芥取爺さん、取りに来て、
だまってごろごろひいてゆく。

金子みすゞ童謡全集5
さみしい王女・上より

私事になりますが、私は高知から縁あって高松へ嫁いできました。その郷里の母も今年94歳になり、視力も聴力も落ち、誰なのか理解できない中で車いす生活をしています。

若い頃は町内会のことや33年間保護司（仮出所者や刑の執行猶予者に対して一定の事項を守るよう指導し、社会人として更生できるよう支援をする人）をつとめるなど、地域の中でお世話をすることを生きがいとしてきた人でした。

88歳の時、その思い出をまとめたいたの希望で「1期1会（いちごいちえ）～保護司としての歩み～」という小冊子を発行しました。今回は、その中からご紹介しましょう。

（堀 侃子）



孤独な老人の死

私の家のすぐ近くの独身アパートに仮釈放となって入居したSさんは、私の担当となった時は、70歳を過ぎていました。

近くだし、私も必ず行き、また本人も来てくれて安心していました。また知人の民生委員の女の方も担当者としてみてくれていました。

数ヶ月たって、その民生委員から本人がいなくなった、市役所へ報告したとの事で私もびっくりしました。何日かたって本人は高知市からずっと西の田舎の家の鶏舎に居たので連れて帰り、病院へ入院させたとの知らせがありました。本人は若い時、山などでトンネルをぬく爆破の技術をもち、それを使用しての犯罪と聞き、やはり長く仕事のため住んでいた元の住居が恋しかったのではないかと思います。

私が月1回は必ず病院へ会いに行くと喜んで、事務所の横の椅子に腰かけ、話をしました。元気そうな身体つきで私も安心しました。

その後も月々行き、何ヶ月目かに事務所の係の方に聞くと、部屋の中ばかりで外出に集団で外に出ることをすすめても出なくなったと聞き、どこか悪いかなとも私は案じていました。

それから1ケ年位経ったある日、突然本人が亡くなったとの電話でびっくりしました。病院の方は「どうしたらよいか」と聞くので、早く市役所へまず届けねばと言い、監察官の車で2人で行くと、安らかな顔つきで、ねむっているようでした。事務所の方に聞くと息子さんが北海道に居るのが分かり、連絡をとったとの事でした。息子さんも早速来られたが、その時Sさんは数十万円残していたとの事で、長期の受刑中に少しずつためたお金かと驚きました。

老人の淋しい人生も久しぶりに息子さんと再会できましたし、自分の葬式料として少しずつお金も残して、何十年振りかの肉親との再会でした。お互いに親子としての深い思いが他人には想像できない心情が、特に息子さんにはあったと思われま



貸した金はかえらず

私の家の近くに18歳の青年が1人ぐらしの独身アパートに転居してきました。担当者として再三行くのに全然会えず、部屋もガランとしていました。ある日、ひょこっと本人が私宅に来ました。来るなり、「金を貸してほしい。実家の母に会いに行く旅費がない。」との言葉に、私もどうも遊ぶ金ではないらしいと見たので、さっそく5千円の本人希望のお金を渡しました。何日かたって、本人に会いにアパートへ行ってもいないので、少し不安になり、調書の文をよく見ると、母は本人を残して1人で再婚していました。その再婚の母の住所は〇〇市であるので、さっそく手紙を出し、本人はそちらへ行ったか、旅費の金を払ってほしいと、細かく書いて出しました。しかし、何日経っても全然母からの返事もなく、また本人もその後、転居して行き先不明で連絡とれずでした。母に捨てられ、金もなく困っているだろうと、私もあきらめた気持ちになりました。

母に会う 金も貸ししに便りなき 今はいづこに少年と母

恋しい母に捨てられ、仕方なく1人で逃げてきた少年かと、そぞろあわれにも考え、知らない土地で働き口もあるだろうかと私も案じるのみでした。他に女の子で、その子も母親がその子を残して母1人で再婚しました。母の元へ会いにちょいちょい行ってきましたが、再犯で「少女の家」へ送られて私とは別れた例もあります。母親が子どもを残して1人で再婚、なんとも言えない私共の心のいたみです。



一隅（いちぐう）を照らす人

「ホイきたぜよ」と地下足袋におおきな鞆のオジさんがごつい手から手紙をくれました。年中歩いて配る高岡町では有名な郵便屋さんです。バスもない電話も少ない時代で、高知市で商売する父からの待ちかねた便りであります。

あのオジさんの日焼けした顔とその言葉は忘れられません。自転車ではなく、わが足で1軒1軒を言葉と共に便りを渡すそれひとつの一生だったと思います。

も1人忘れられない人があります。石屋さんです。全然太陽も当たらない狭い寒い店先で、コツコツと鑿（のみ）と金槌（かなづち）で石碑を彫っていました。そのうす暗い仕事場で雨の日も風の日もオジさんは、ただ黙々と石を見つめ亡き人の名前を一心に刻んでいました。あたまには電球がぶら下がり、顔を石にくっつけて小さい字を心して刻んでいました。私の家の隣だったし、そこの幸（ゆき）ちゃんと遊ぶためにオジさんの仕事を見ながら、その横を通過して出入りしました。夜ねて天井を見ながら昔の思い出をたどっています。さて、今の自分は何をして来たか。88年の自分の生きがいは何であったのか。

父母兄弟達にも何も恩返し出来ずにすまない事ばかりです。これから何年生きるか、残りの人生を大切に、多くの人々に恩返しの1つでもしたいと、反省のみであります。

ただ少し、少年非行防止の手助けとして、保護司と更生保護婦人会員して務めはしたが、その少年たちとのふれ合いに色々私の方が教えられ、またその父母（特に母や祖母）の方々の援助やお互いの心の交流や先方の協力をつくづくありがたく、今も思い出します。今でも、その母親の方に会うと昔のことを話してなつかしくなります。昔のその少年も、今は立派な事業家となり、3人の子どもは専門学校まで出して、公務員として就職もし、立派な家庭を築いています。人生は努力ですね。つくづく思います。努力なくして成功なし。努力は天才なり。

上の2役の任命を受けて続けられたのは、縁あって昭和52年に中央仏教学院の通信教育課程を卒業できて、仏縁の道に進まして頂き、多くの恩師やよき友に恵まれた御恩は、私の大きな財産であり、生きる道しるべでございました。

さて、私のこれからの出来るご恩返しは何でしょうか。身体は弱ったし、何も出来るようにありません。いや待てよ。ひとつありそうだ。そうだ。「やさしい言葉」と「笑顔」これなら何時でも何処でも誰にでも出来る。「無財の七施」のひとつでございませう。庭のシクラメンの花が2つこちらを向いて笑っています。ほのかなその色、心なごみます。ありがとうよ。

去年は、背が高すぎるとの事で柿の木を惜しみなく切り捨てました。この春になって「ああ、しまった。」と後日よく見ると、なんと小さい芽を吹き出しかけています。自然は根強い。そして美しい。「おい、元気を出せよ。」と木の方から、はげましてくれているようです。



（稲見 初美 88歳）

